

令和 6 年度 堺市障害者自立支援協議会

第 3 回 強度行動障害支援部会 議事概要

日時 令和 7 年 2 月 18 日（火） 10：00～11：05

場所 堺市役所本館 6 階 会議室 A

出席者 林（施設部会）、植田（関西大学）、平野（北摂杉の子会）、吉川（アプリコット堺）、
河瀬（堺区地福）、佐門（北区地福）、柳（障害支援課）、川野・川崎（障害者更生相談所）、
石橋（北区基幹）、陳（コスモス）、藤原（障友会）、木村（こころの窓）

傍聴 1 名

1. 強度行動障害支援体制整備事業の実施報告について（資料 1-1）（資料 1-2）

（専門的法人）

評価の方法について改めて説明。

コスモス

実践報告会を専門講座に振り替え、管理職向けと現場職員向けに 2 回実施。各事業所で標準的な支援について取組を始めたところ。現状の欄は 11 月時点の評価を記している。現時点ではコンサルタントの評価は厳しく出ているが、今後変化すると思う。

職員アンケートについて、令和 6 年 10 月は法人全体に実施。令和 7 年 2 月はコアメンバーにお願いしている。利用者評価については、支援の開始には至らないが、1 ケースはすでに結果が出ている。

こころの窓

実地研修と訪問コンサルテーションの 5 回が終了。標準的な支援状況表では自己評価に対してコンサルタントの評価が高い。アンケートは前回より自己評価が下がっているが、研修での学びから、気づきに繋がり、自己評価が下がることはよくある。利用者の 2 名に大きな変化はないが、特性に応じた検査を取ることで見えてきた部分として、コミュニケーションの部分が意外と難しいという発見を書いている。課題であり強みでもある。

障友会

作業療法士の資格があるコンサルタントが担当。アセスメントを丁寧に実施しているので、これからに期待している。職員アンケートの理解の項目では、特性理解やアセスメントに時間をかけたことで見えてきたことだと思う。Y 氏の利用者評価に誤りがあり、22 点ではなく正しくは 21 点。今回のコンサルテーションでは、大阪府事業の 3 年目の法人が北摂杉の子会のコンサルテーションに同行し、事業所間で交流を行った。同行した法人も同じように事業の 1 年目には不安を感じていたことや、3 年目で特性がわかってくると利用者に対して申し訳ないことをしていたという思いや支援の面白さを話してくれた。今回の交流で 3 年目のイメージをしてもらい、支援体制が大阪府全域で広がればと思っている。

<参画法人から訪問コンサル、実地研修での学び、新たな課題についてなど>

- ・ コンサルタントが検査をする中で、利用者行動評価に挙げた 2 名のケースに共通して相手の意図や言葉を理解することが不十分という結果が出た。本人が一生懸命考えた結果、マイルールを作ってしまったことで、色々な問題が起きていた。本人のこだわりと見えていた部分が、スタッフの声掛けで無くなる部分もあり、今は悩みながら支援を考えている。

専門講座では、チーム支援や組織の重要性等を学び、管理者として学んだことを職員と共有している。現場のスタッフに説明できるのか、コアメンバーの不安な声が訪問コンサルテーションのときに聞こえる。利用者の内面が豊かになることが、豊かな生活に繋がると考えている。職員や利用者が協働する中で変化があれば、やりがいを感じられると信じている。今後は、現場にも入り助言もできればと思う。

- ・ コアメンバーのチームの成熟度も進んでいない中で、ゴールが見えない不安を感じているが、コンサルでは我々に寄り添った助言をいただいている。2名のケースでは、専門的なアセスメントを受けて、利用者の苦手なところ、できていることの整理を行った。当たり前のことであっても、指摘されることで事業所内でも納得して共有できた。何も無い時間を作らないことで、本人も落ち着いて過ごすことができている状況を実地研修で見て学ぶことができた。また、日中のスケジュールを詰め込み過ぎていることや、カードを使った支援の仕方のブラッシュアップなども教えていただき、コミュニケーションを表出できるように理解を深めたいと感じた。組織としては、参考書を読むことで、カード支援や PECS 等、アプローチの方法に力を入れて学んでいる。2年後に事業の成果を出せるのか不安を感じているが、良い刺激になり学ぶことができている。今後、コンサルテーションから現場に戻す過程で、みんなを巻き込む方法を考える必要性を感じている。

→（部会長）現場に寄り添って実施していただいている。2年後の不安についても、目標を高く持っていていただいていると感じている。

- ・ 2名のケースを通じて、困っているのは支援者なのか本人なのか、という基本のアセスメントを丁寧に行っているため、直接の支援段階には進んでいない。特性シートの作成に関して、アセスメントを深める段階だが、コアメンバーは真面目で、正解を出さないといけないという意識が強く、その先に繋がる利用者への意識が持ちにくかったことに少し変化が表れている。今後、可能であれば参画法人同士でもコンサルテーションができれば、コンサルテーションに行く人を育てることもできて面白いと思う。実地研修はすごく刺激があり、実際に見ることが大切だと感じた。

更生相談所との共催研修『知的障害と自閉スペクトラム症～当事者の方をモデルに支援の組み立て方を実践しよう～』にも、コアメンバーが1名参加している。研修での成功体験から支援が楽しいと感じてもらえて嬉しい。悩んでいるコアメンバーへは、今は利用者にとって大事な部分を学んでいると鼓舞している。他の人を巻き込むときに必要なことは根拠であり、特性理解についても根拠が必要だと思った。人を怒らせてパターンを作る人について、普段はそうは見えないが、不安が強いのではないかと助言をいただき、想像力についても私たちとの違いを考える中で、コアメンバーにも問いかけ、言葉を引き出すようにサポートしている。

＜補足・質疑応答＞

（専門的法人）

コンサルテーションは参画法人にとってプレッシャー。標準的な支援は座学で学んでも難しいため、OJTが必要かもしれない。先ほどもあった、コミュニケーションの課題について、伝えられるツールがあれば、職員も驚くことが起きる。記録を取ることで、本人の好きなことやそこから繋がる強みが見える。実際、支援の組み立てがはじまって大変な部分も多い。スケジュールを作れば良いということではなく、利用者の過去のエピソードから、丁寧にピントを合わせる作業をめげずに行うことが重要。強度行動障害の方がマイナスな経験をパターン化してしまうのは、同じ行動が安心になるため、インパクトの強いマイナスの経験から得たマイルールに縛られていると想像できる。良い行動を褒めることで、本人の豊かな生活に繋がると考える。

睡眠について記録を取るとわかることもある。職員から見ると本人が寝ていると仕事がスムーズかもしれないが、手持ち無沙汰が辛い人もいる。

来年は2ヵ月に1回と訪問頻度が空くため、コンサルテーションを待たずに質問があればメールでの対応も可能。

→（委員）コンサルテーションへの同行について、今後、参画法人にも機会があるのか。

→（専門的法人） 2、3 年目のメニューとして準備している。また、アセスメントについて、ケース検討のグループワークを考えている。

- ・（委員）コアメンバーが持ち帰り、組織としてシフトを組むなど理解が必要だと思う。現場と組織の協力体制はどのように取れているのか。

→（参画法人）コアメンバーの負担はそれほどない。組織として事業に参画するという意識は共有されている。中核的な人材育成についてコアメンバーも考えている。現場に持ち帰る部分は報告をして種をまいているが、自分自身が現場に入らないと難しいと感じている。

→（参画法人）現場の主任と大切なことを一緒に考えて実施している。

→（参画法人）管理者として全面的に支援している。今大事なことをしているとコアメンバーに対しても伝えていく。法人全体に広げることを考える必要がある。

2. 次年度の部会について（資料 2）

（事務局）資料 2 のとおり説明。

3. その他

- ・ 2/3 更生相談所との共催研修で連続企画シリーズ第 3 回「知的障害と自閉スペクトラム症～当事者の方をモデルに支援の組み立て方を実践しよう～」実施。今後、行政機関や基幹相談の支援者に向けて、視覚支援について学ぶ機会が必要だと感じている。3/17 には、NPO 法人ぴーすのぽっしえに協力いただき視覚支援ツールのワークショップを開催予定。この動きを堺市に広げたい。今回、報告いただいたコンサルテーションへの不安な部分についても、視覚支援グッズ作成のアドバイスができることに繋がると考えている。来年度以降に部会の中で研修企画として報告したい。

○令和 7 年度第 1 回強度行動障害支援部会について

日時 令和 7 年 6 月 3 日（火） 10：00～12：00

場所 堺市役所本館 6 階 会議室 B